

平成30年度山梨県教育課程実施状況調査 結果の概要

山梨県総合教育センター
山梨県教育庁義務教育課

1 調査の目的

小学校及び中学校における学習指導要領に基づく教育課程の実施状況について、学習指導要領における各教科の目標や内容に照らした学習の実現状況を調査することで、指導上の課題を明らかにして、今後の学校における学習指導の改善に資する。

2 調査の対象等

○総合教育センターにおいて、相当学年の児童生徒の約1割になるよう無作為に抽出した。

対象学年	校数	受検児童生徒数	調査教科	出題範囲
小学校6年	20校	868人	社会	小学校5年生の学習内容から出題
中学校3年	10校	889人	社会	中学校2年生の学習内容から出題

3 調査の日時

区分	小学校	中学校
実施日	平成30年4月12日（木）から4月27日（金）までの期間に学校ごとに実施	
調査教科 (実施時間)	社会（40分）	社会（45分）

4 教科の主な結果

平成30年度調査

校種・学年・調査	設問数	平均正答率（県）%	平均正答率（全国）%	県－全国
小・6・社会	30問	59.1	63.8	-4.7
中・3・社会	29問	56.8	56.7	+0.1

5 全体的な傾向の分析・考察

今回の調査では、小学校が全国の平均正答率を下回っているが、中学校は全国とほぼ同じ正答率であった。

設問ごとの正答率をみると、小学校では基本的な用語や事象の定着に課題が見られ、中学校では複数の事象や資料を絡めた出題に対して課題が表れている。どの発達段階においても基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付けさせ、それらを活用する能力を育てていく必要がある。

今回の調査結果を踏まえ、「主体的・対話的で深い学び」を実現できるように授業改善を進めていく必要がある。

平成30年度 調査結果と授業改善のポイント〔小学校・社会〕

6年生の社会科について、児童の平均正答率は59.1%で、全国平均の63.8%を4.7ポイント下回っている。昨年度に比べ0.7ポイント差が開いている。

「基礎」が5.7ポイント、「活用」が全国平均を1.8ポイント下回っている。

問題の内容別正答率では、「自動車をつくる工業」で全国平均を0.4ポイント上回っている他は、すべての内容で全国平均を下回る結果となっている。特に「日本の農業と水産業」(−8.4ポイント)、「日本の国土と人々の暮らし」(−7.6ポイント)に課題が見られる。

評価の観点別の平均正答率では、「社会的事象についての知識・理解」が5.0ポイント全国平均を下回っているほか、すべての観点で全国平均を下回っている。

出題形式では、「短答式」が全国平均を6.8ポイント下回っているなど、すべての形式で全国平均を下回っている。

対象児童数	設問数	平均正答率(県) %	平均正答率(全国) %	全国との差
868人	30問	59.1	63.8	−4.7

種別		対象設問数	平均正答率(県) %	平均正答率(国) %	全国との差	
問題の内容	国土の自然などの様子	世界の中の国土	3	60.3	65.4	−5.1
		日本の国土と人々の暮らし	4	52.2	59.8	−7.6
	農業や水産業	日本の農業と水産業	4	49.7	58.1	−8.4
		日本の食料生産	3	74.2	78.9	−4.7
	工業生産	自動車をつくる工業	4	66.3	65.9	0.4
		工業生産と工業地域	4	53.2	57.1	−3.9
		工業生産と貿易	3	47.9	52.8	−4.9
	情報産業や情報化社会	わたしたちの生活と情報	2	69.0	73.4	−4.4
わたしたちの生活と環境		3	67.0	71.1	−4.1	
評価の観点	社会的事象への関心・意欲・態度	10	58.4	61.4	−3.0	
	社会的な思考・判断・表現	13	59.6	62.7	−3.1	
	観察・資料活用の技能	21	60.1	64.0	−3.9	
	社会的事象についての知識・理解	25	58.1	63.1	−5.0	
解答形式	選択式	22	66.0	70.4	−4.4	
	短答式	5	45.8	52.5	−6.8	
	記述式	3	30.5	34.3	−3.8	

【設問ごとの定着状況】

○：全国平均正答率を上回っている問題 ▼：全国平均正答率を下回っている問題

< >内の数値は県の平均正答率, ()内の数値は県と全国との平均正答率の差

〈日本の農業と水産業〉

▼「さいごい」漁業と書く問題 [短答]〈知〉<11.1>(−20.3)

▼米の消費量を増やすためのくふうや努力について、正しい説明を選択肢から選ぶ問題 [選択]〈思〉<47.2>(−8.4)

〈世界の中の国土〉

▼世界の主な大陸の名称と位置について、選択肢から選ぶ問題 [選択]〈知〉<57.5>(−10.6)

〈日本の国土と人々の暮らし〉

▼説明を読み、「台風」と書く問題 [短答]〈知〉<67.3>(−9.7)

▼日本海側の降水量が冬に特に多い理由を、資料を読み取り考えて、表現する問題 [記述]〈思〉<21.3>(−9.6)

〈わたしたちの生活と情報〉

▼マスメディアの種類と特徴の正しい組み合わせを選択肢から選ぶ問題 [選択]〈知〉<73.0>(−9.2)

〈自動車をつくる工業〉

○環境を配慮して生産された車の説明を読み、「電気」自動車と書く問題 [短答]〈知〉<80.6>(+3.4)

教育課程実施状況調査〔小学校・社会〕

【正答率の高い設問】 上位3題

No.	設問の内容	正答率 (%)
1	工業製品とそれをつくっている工業の名称の組合せを選択肢から選ぶ問題 [選択] 〈知〉	85.1
2	消費者の需要にこたえ優れた製品を生産するための工夫を選択肢から選ぶ問題 [選択] 〈思〉	84.2
3	環境に配慮して生産された電気自動車の資料を読み、名称を記述する問題 [短答] 〈知〉	80.6

【正答率の低い設問】 下位3題

No.	設問の内容	正答率 (%)
1	説明から、「さいばい」漁業であることを理解し、名称を記述する問題 [短答] 〈知〉	11.1
2	日本海側の冬の降水量が多い理由を、資料を読み取り考えて表現する問題 [記述] 〈思〉	21.3
3	工業地域の立地条件について、資料を読み取り考えて表現する問題 [記述] 〈思〉	28.6

【無解答率が高い設問】 下位3題

No.	設問の内容	無解答率 (%)
1	複数の資料を読み、貿易や運輸が工業生産を支えることを表現する問題 [記述] 〈思〉	22.4
2	工業地域の立地条件について、資料を読み取り考えて表現する問題 [記述] 〈思〉	18.7
3	日本海側の冬の降水量が多い理由を、資料を読み取り考えて表現する問題 [記述] 〈思〉	17.5

【授業改善のポイント】

基本的な用語や事象の定着に課題が見られる。単に暗記するだけの学習になっていると「使える知識や技能」の習得は難しいと考えられる。児童が疑問をもち、それを追求・解決するために、見通しをもって学習を進めていくことが必要であり、そのための授業改善のポイントとして次の4つの視点を示す。

□「問い」を提示していますか？

- ・「ねらい」を明確にする。(本時で目指すことは？本単元で目指すことは？)
- ・ねらいに迫るためにはどんな知識や技能が必要か整理する。
- ・ねらいに迫るための「問い」を設定する。

□効果的な教材を提示していますか？

- ・児童から「問い」が生まれるような「教材」を提示する。
 ※例「これは何でしょう？」
 →「疑問に思うのはどんなところですか？」
 →「なぜこのようになっているのでしょうか？」→問題解決的な学習へ
- ・「問い」を受けて出てきた児童の疑問や予想を基に学習計画を立て、それを解決するような学習展開を組み立てる。
 ※例) 疑問→学習問題(学習課題)の設定→予想→学習計画(学習の見通し)

□対話的な学びをしていますか？

- ・課題追求や課題解決の場面では効果的に言語活動を取り入れる。
 ※「何について考えるのか。何について話し合うのか。」目的や意義を明確にしておく。
 ※「手段」として用いることを意識する。
- ・考える根拠になるような資料を用いる。(教師の提示・児童の調べ学習など)
 ※資料を用いる目的や意味を確認する。
- ・考えを表現する場面を設定する。
 ※学習内容を用いて表現するように促す。
- ・児童とのやりとりを通してまとめることを意識する。
 ※問い返す、児童の考えをつなぐ等

□評価をしていますか？

- ・児童自身による振り返り(何がわかったか。何がわからなかったか。等)
 ※例) OPP や活動前に提示したルーブリック等を活用して自ら学びを振り返る。
 そこから新たな疑問が出てきて次の学習につながることも考えられる。
- ・教師による振り返り
 ※「ねらい」としていたものがどの程度定着しているのかという視点から、児童の実態及び実践について振り返り次につなげる意識をもつ。

平成30年度 調査結果と授業改善のポイント〔中学校・社会〕

生徒の平均正答率が56.8%で、全国平均を0.1ポイント上回っている。

「基礎」が58.4%で全国を0.5ポイント上回っているが、「活用」は49.2%と全国を1.4ポイント下回っている。

問題の内容別正答率では、地理で「世界と比べた日本の地域的特色」が全国を2.5ポイント上回っているが、「身近な地域の調査」では3.7ポイント全国平均を下回っている。歴史についてはすべての内容で全国平均を下回る結果となっている。

評価の観点別の正答率では「社会的事象についての知識・理解」「資料活用の技能」は全国平均を上回っているが、「社会的な思考・判断・表現」が1.0ポイントで全国平均を下回っている。

出題形式では、「選択式」が全国平均を0.6上回っているが、「短答式」が全国平均を1.7ポイント下回っている。

受検生徒数	設問数	平均正答率(県)%	平均正答率(全国)%	全国との差
889人	29問	56.8	56.7	0.1

種別		対象 設問数	平均正答率 (県)%	平均正答率 (国)%	全国との差	
問題 の 内容	地理	日本の地域構成	3	56.8	56.7	0.1
		世界と比べた日本の地域的特色	3	69.9	67.4	2.5
		日本の諸地域	6	62.4	62.0	0.4
		身近な地域の調査	2	69.0	72.7	-3.7
	歴史	ヨーロッパ人との出会いと全国統一	4	63.9	64.7	-0.8
		江戸時代	6	51.2	52.2	-1.0
		明治時代	5	37.4	38.3	-0.9
評価の 観点	社会的事象への関心・意欲・態度	15	58.8	59.3	-0.5	
	社会的な思考・判断・表現	15	52.3	53.3	-1.0	
	資料活用の技能	20	56.1	55.9	0.2	
	社会的事象の知識・理解	27	58.7	58.1	0.6	
出題 形式	選択式	22	58.2	57.6	0.6	
	短答式	5	51.5	53.2	-1.7	
	記述式	2	54.5	54.5	0	

【設問ごとの定着状況】

○：全国平均正答率を上回っている問題（上位3題） ▼：全国平均正答率を下回っている問題（下位3題）
 < >内の数値は県の平均正答率 （ ）内の数値は県と全国の平均正答率の差

〈地理的内容〉

- 都道府県の位置や県庁所在地名についての条件に合致する県を選択肢から選ぶ問題 <74.8> (+11.2)
- 農業生産に関する資料がどの都道府県のものであるかを、選択肢から選ぶ問題 <60.2> (+8.6)
- 人口推移のグラフにおける各州の組合せとして正しいものを選択肢から選ぶ問題 <60.0> (+5.6)
- ▼地形図から地域の特徴を読み取った内容として正しいものを選択肢から選ぶ問題 <54.1> (-5.4)
- ▼雨温図と気候の特徴の説明文との組合せとして正しいものを選択肢から選ぶ問題 <52.3> (-3.6)
- ▼世界から見た日本の様子を様々な視点から述べた文として正しいものを選択肢から選ぶ問題 <49.0> (-2.1)

〈歴史的内容〉

- 大日本帝国憲法の制定の際に、参考とした国を選択肢から選ぶ問題 <63.5> (+11.3)
- 江戸時代の文化の特徴と代表的な作品の説明を読み、「化政」文化と記述する問題 <43.5> (+4.0)
- キリスト教伝来のきっかけである宗教改革について選択肢から選ぶ問題 <46.9> (+3.6)
- ▼明治政府による経済政策について理解し、「殖産興業」と記述する問題 <6.6> (-10.0)
- ▼地租改正に関する資料であることを判断し、関連する説明を選択肢から選ぶ問題 <35.0> (-4.1)
- ▼江戸時代の政治とその結果の組合せとして正しいものを選択肢から選ぶ問題 <45.2> (-3.6)

【正答率の高い設問】 上位3題

No	問題の内容	正答率 (%)
1	九州地方の火山活動に由来する地形の説明文を読み、「シラス」と記述する問題	84.5
2	等高線について理解し、土地の傾斜が最も急であるものを選択肢から選ぶ問題	83.9
3	伝統産業や地場産業がさかんな地域の説明として正しいものを選択肢から選ぶ問題	82.8

【正答率の低い設問】 下位3題

No	問題の内容	正答率 (%)
1	明治政府による経済政策について理解し、「殖産興業」と記述する問題	6.6
2	日本の諸地域に関する複数の資料から読み取れる内容を選択肢から選ぶ問題	31.9
3	地租改正に関する資料であることを判断し、関連する説明を選択肢から選ぶ問題	35.0

【無解答率の高い設問】 上位3題

No	問題の内容	無解答率 (%)
1	明治政府による経済政策について理解し、「殖産興業」と記述する問題	37.0
2	自由民権運動について、資料をもとに、指定された複数の語句を用いて表現する問題	24.3
3	江戸時代の文化の特徴と作品から、「化政」文化と記述する問題	23.2

【授業改善ポイント】

□「質」を意識した確実な「習得」を目指して 知識・理解の「質」を意識した学習を

用語等を答える問題については、いずれの分野・領域においても比較的高い正答率である。しかし、複数の事象や資料を絡めた出題になると正答率が下がる。用語や事象について言葉のみを捉えるのではなく、「本質」を理解し、活用できる知識となるように生徒も教師も意識する必要がある。そうした学習を行うためのポイントを「主体的な学び」「活用場面の設定」「学習環境づくり」の視点から述べ、具体的な対策を示す。

〈主体的な学び〉

- ・単元を通して「獲得すべき資質・能力」を明確にし、学習計画を立てたり、学習課題を設定したりする等、「構造化」を図る。
- ・生徒が動き出したいくなるような課題設定をする。(自己との関りを実感させる等)
- ・見通す・振り返る学習活動を実践、継続する。
- ・学習課題を「考察」した上で「構想」するような場面を設定する。(自分ごととして考えられるような工夫)

〈活用する場面を設定〉

- ・「見方・考え方」を働かせるための発問の工夫
- ・生徒が動き出したいくなるような課題設定をする。(自己との関りを実感させる等)
- ・課題を追求・解決するための視点や方法を効果的に提示する。
視点：「位置や空間的広がり」「時期や時間の経過」「事象や人々の相互関係」等
方法：「比較」「関連付け」「統合」等を効果的に実施するための手段としての言語活動
- ・説明したり、議論したりする場面を設定する。

〈学習環境づくり〉

- ・予習や復習などの家庭学習を授業と連動させる。(生徒に家庭学習をすることで授業がわかるという意識を持たせる、効率的に知識を習得させ、授業で知識を活用する時間を確保する)
- ・生徒が自らの学びの成長を実感できるような、ノートやワークシート等の工夫を行う。

【地理的内容】 □資料を基に考察する学習の重視

- ・地形図や雨温図等の資料を的確に読み取ったり、有効に活用して事象を説明したりする学習活動を計画的かつ継続的に取り入れる。

【歴史的内容】 □歴史の大きな流れを捉える学習の重視

- ・用語や事象について自分の言葉で説明する活動を取り入れる。
- ・資料を基に歴史的事象の背景や影響・歴史的意義について文章や関係図等に表現したり、説明したりする学習活動を計画的かつ継続的に取り入れる。

□具体的な対策

- ・日常的にグラフ等の資料を活用する。
- ・読み取ったことを文章にするなど個で考えた上で、協働的な学びの場面を設定し、相互に説明し合う中で、確かな理解を目指す。

例) 担当地域を決め、自分が担当する地域の気候の特色について、雨温図を用いながら、他者にわかるように説明する活動

- ・用語や事象の意味や背景について考える場面を設定する。

例) 「なぜ、殖産興業政策が必要とされたのか？」

- ・教科書の本文が、資料をもとに書かれていることを意識する。
- ・ただ与えるのではなく、資料を扱う目的や資料のもつ意義をおさえる。

例) 「〇〇を知るためにはどんな情報が必要かな？」→資料検索・提示（目的意識を大切にする）

- ・資料から読み取れることを文章で表したり、説明したりする活動を継続的に設定する。

（最初は教師が例を示したり、よい事例を紹介したりすることも必要）

- ・生徒が資料と関わる活動を継続的に設定する。
- ・文章を読む活動を取り入れる。

例) 予習や復習として教科書を読んだり、要約したりする。

新聞記事の活用（要約や穴埋め、自分の考えの記述）

- ・協働的な学習の場面で他者の考えを踏まえて、自分の考えを書いたり述べてりする活動を意識する。